

Properties of the iliotibial band and their relationships with gait parameters among patients with knee osteoarthritis

Yagi M^a, Taniguchi M^a, Tateuchi H^a, Yamagata M^{a,b,c}, Hirono T^{a,b}, Asayama A^a, Umehara J^{a,b}, Nojiri S^a, Kobayashi M^d, Ichihashi N^a

^a Human Health Sciences, Graduate School of Medicine, Kyoto University

^b Research Fellow of Japan Society for the Promotion of Science

^c Department of Human Development, Graduate School of Human Development and Environment

^d Kobayashi Orthopaedic Clinic

Journal of Orthopaedic Research (IF=3.102)

PMID: 36222472

DOI: <https://doi.org/10.1002/jor.25466>

研究の概要：

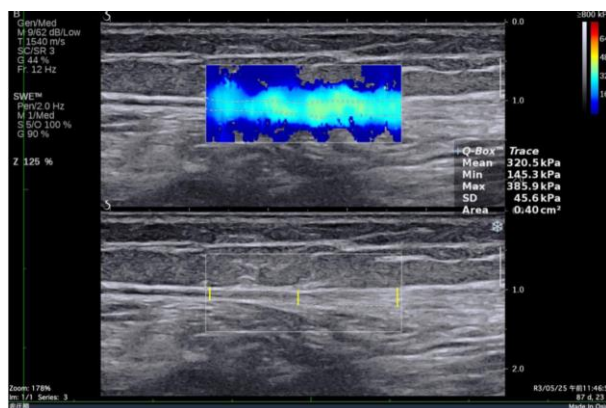
変形性膝関節症（膝 OA）患者の腸脛靭帯の特徴や、その特徴に関わる要因は明らかではありません。本研究の目的は、膝 OA 患者の腸脛靭帯の厚さと硬さの特徴を明らかにし、それらに関連する歩行時の特徴を示すことでした。

【方法】

- ・ 対象：膝 OA18 名と 22 名の膝痛のない高齢者
- ・ 方法：超音波診断装置を使用して腸脛靭帯の硬さと厚さを計測しました。膝 OA 患者では歩行分析を行いました。

【結果】

- ・ 腸脛靭帯は膝 OA 患者で膝痛のない高齢者より硬い
- ・ 腸脛靭帯の厚さには両群で明らかな差がない
- ・ 膝 OA 患者では、外部膝関節内反モーメントの立脚期中の積分値および立脚初期の外部股関節屈曲モーメントが大きいほど、腸脛靭帯が硬い



【結論】

膝 OA 患者の腸脛靭帯は、負荷が増大することで硬化しているということが示唆されました。

